様式－5Ｃ⑧－10　　工事番号

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
３．出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	道路改良工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価率）から判断する。（判断基準参照）						
		該当	評価	「評価対象項目」			評価	評価
				【土工】			□ 49．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で改善指示を行い改善された。	□ 50．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。
		□	□	1．雨水による崩壊が起こらないように、法頭や法尻の排水路、法面のシートかけ等の排水対策を実施していることが確認できる。				
		□	□	2．段切りを設計図書に基づき行っていることが確認できる。				
		□	□	3．掘削を行うにあたり、床付面以下を乱さないように施工していることが確認できる。				
		□	□	4．締固めが設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。				
		□	□	5．一層あたりのまき出し厚を管理していることが確認できる。				
		□	□	6．植生工を設計図書に定められた条件で行っていることが確認できる。				
		□	□	7．構造物周辺の締固めを設計図書に定められた条件で行っていることが確認できる。				
		□	□	8．土羽土の土質が設計図書を満足していることが確認できる。				
		□	□	9．ＣＢＲ試験などの品質管理に必要な試験を行っていることが確認できる。				
		□	□	10．法面に有害な亀裂がない。				
		□	□	11．伐開除根作業が設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。				
		□	□	12．その他（理由：　　）				
				【法面工共通】				
		□	□	13．施工基面を平滑に仕上ていることが確認できる。（特に法枠工、ｺﾝｸﾘｰﾄ又はﾓﾙﾀﾙ吹付工関係）				
		□	□	14．施工に際して、基面の安定や吹き付け材の付着に害となる施工面の浮き石やゴミ等を除去してから施工していることが確認できる。				
		□	□	15．その他（理由：　　）				
				【種子吹付工、客土吹付工、厚層基材吹付工関係】				
		□	□	16．土壌試験の結果を施工に反映していることが確認できる。				
		□	□	17．ネットなどの境界に隙間が生じていないことが確認できる。				
		□	□	18．ネットなどが破損を生じていないことが確認できる。				
		□	□	19．吹付け厚さが均等であることが確認できる。				
		□	□	20．使用する材料の種類、品質、配合等が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
		□	□	21．施工時期が定められた条件を満足していることが確認できる。				
		□	□	22．その他（理由：　　）				
				【コンクリート又はモルタル吹付け工関係】				
		□	□	23．使用する材料の種類、品質及び配合が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。				
		□	□	24．金網の重ね幅が、１０㎝以上確保されていることが確認できる。				
		□	□	25．金網が破損を生じていないことが確認できる。				
		□	□	26．吸水性の吹付け面において、事前に吸水させてから施工していることが確認できる。				
		□	□	27．吹付け厚さが均等であることが確認できる。				
		□	□	28．吹付け厚さに応じて２層以上に分割して施工していることが確認できる。				

□	□	29．圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。
□	□	30．不良箇所が生じないよう跳ね返り材料の処理を行っていることが確認できる。
□	□	31．法肩の吹付けにあたり、地山に沿って巻き込んで施工していることが確認できる。
□	□	32．その他（理由：　　）
		【現場打法枠工関係（プレキャスト法枠工含む）】
□	□	33．使用する材料の種類、品質及び配合が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	34．アンカーを設計図書どおりの長さで施工していることが確認できる。
□	□	35．現場養生が、設計図書の仕様を満足するように実施されていることが確認できる。
□	□	36．圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。
□	□	37．枠内に空隙がないことが確認できる。
□	□	38．層間にはく離がないことが確認できる。
□	□	39．不良箇所が生じないよう跳ね返り材料の処理を行っていることが確認できる。
□	□	40．その他（理由：　　）
		【路床・路盤工関係】
□	□	41．設計図書に定められた試験方法でＣＢＲ値を測定していることが確認できる。
□	□	42．路床及び路盤工のプルーフローリングを行っていることが確認できる。
□	□	43．路床及び路盤工(凍上抑制層を含む）の密度管理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	44．路盤の安定処理は材料が均一になるよう施工していることが確認できる。
□	□	45．路盤の施工に先立って、路床面、下層路盤面の浮き石及び有害物を除去してから施工していることが確認できる。
□	□	46．路床盛土において、一層の仕上がり厚を２０ｃｍ以下とし、各層ごとに締固めて施工していることが確認できる。
□	□	47．路床盛土において、構造物の隣接箇所や狭い箇所における締固めが、タンパ等の小型締固め機械により施工していることが確認できる。
□	□	48．その他（理由：　　）
		「品質関係の試験結果のばらつき」
□		51．ばらつきが50%以内
□		52．ばらつきが80%以内
□		53．ばらつきが80%を超える
評価率		
評　定		※評価対象となる項目が２項目以下の場合はｃ評価とする。
点　数		

「判断基準」

		ばらつきで判断可能		
		50%以内	80%以内	80%を超える
評価率	90%以上	a	a’	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c
	60%未満	b’	c	c

※ばらつきで判断できない場合は、品質のばらつきを規格値の80%以内と見なして評価する。

様式－5Ｃ⑩－21　　工事番号

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	b	c	d
３．出来形及び出来ばえ Ⅲ．出来ばえ	道路改良工事	優れている。	やや優れている。	他の事項に該当しない。	劣っている

該当	評価	「評価対象項目」
□	□	１．仕上げが良い。
□	□	2．通りが良い。
□	□	3．植生、吹付等の状態が均一である。
□	□	4．端部処理が良い。
□	□	5．構造物へのすりつけ等が良い。
□	□	6．全体的な美観が良い。
評価		
点数		

該当項目が6項目の場合	該当項目が5項目の場合	該当項目が3～4項目の場合	該当項目が2項目以下の場合
5項目以上評価・・・a	4項目以上評価・・・a	3項目以上評価・・・a	1項目以上評価・・・c
4項目以上評価・・・b	3項目以上評価・・・b	2項目以上評価・・・b	評価項目なし　・・・d
3項目以上評価・・・c	2項目以上評価・・・c	1項目以上評価・・・c	
2項目以下　　・・・d	1項目以下　　・・・d	評価項目なし　・・・d	

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
３．出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	基礎工事（地盤改良等を含む）	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価率）から判断する。（判断基準参照）						

該当	評価	「評価対象項目」
		【杭関係（コンクリート・鋼管・鋼管井筒・場所打・深礎等】
□	□	1．杭に損傷及び補修痕がないことが確認できる。
□	□	2．既製杭の打止め管理の方法及び場所打ち杭の施工管理の方法が整備されており、その記録を整理していることが確認できる。
□	□	3．杭頭処理において、杭本体を損傷していないことが確認できる。
□	□	4．水平度、鉛直度等が設計図書を満足していることが確認できる。
□	□	5．溶接の品質管理に関して、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	6．支持地盤に達していることが、掘削深さ、掘削土砂等により確認できる。
□	□	7．場所打杭について、トレミー管をコンクリート内に２m以上挿入して施工していることが確認できる。
□	□	8．掘削深度、排出土砂、孔内水位の変動及び安定液を用いる場合の孔内の安定液濃度並びに比重等が、設計図書を満足していることが確認できる。
□	□	9．配筋、スペーサーの配置及びコンクリート打設等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	10．ライナープレートの組み立てにあたり、編心と歪みに配慮して施工していることが確認できる。
□	□	11．裏込材注入の圧力などが施工記録により確認できる。
□	□	12．強度確認、セメントミルクの比重管理などの品質に係わる事項の管理資料を整理していることが確認できる。
□	□	13．その他（理由：　　）
		【地盤改良関係】
□	□	14．改良材のバッチ管理記録が整理され、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	15．セメントミルクの比重、スラリー噴出量、強度等の管理資料を整理していることが確認できる。
□	□	16．事前に土質試験を実施し、改良材の選定、必要添加量の設定等を行っていることが確認できる。
□	□	17．施工箇所が均一に改良されているとともに、十分な強度及び支持力を確保していることが確認できる。
□	□	18．その他（理由：　　）

評価	d
□	19．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で改善指示を行い改善された。

評価	e
□	20．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

		「品質関係の試験結果のばらつき」
□		21．ばらつきが50%以内
□		22．ばらつきが80%以内
□		23．ばらつきが80%を超える
評価率		
評　定		※評価対象となる項目が２項目以下の場合はｃ評価とする。
点　数		

「判断基準」

		ばらつきで判断可能		
		50%以内	80%以内	80%を超える
評価率	90%以上	a	a’	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c
	60%未満	b’	c	c

※ばらつきで判断できない場合は、品質のばらつきを規格値の80%以内と見なして評価する。

様式－5Ｃ⑩－6　　工事番号

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	b	c	d
３．出来形及び出来ばえ Ⅲ．出来ばえ	基礎工事（地盤改良等を含む）	優れている。	やや優れている。	他の事項に該当しない。	劣っている

該当	評価	「評価対象項目」
□	□	1．土工関係の仕上げが良い。
□	□	2．通りが良い。
□	□	3．端部及び天端の仕上げが良い。
□	□	4．施工管理記録などから不可視部分の出来ばえの良さが伺える。
評価		
点数		

該当項目が3～4項目の場合	該当項目が2項目以下の場合
3項目以上評価・・・a 2項目以上評価・・・b 1項目以上評価・・・c 評価項目なし　・・・d	1項目以上評価・・・c 評価項目なし　・・・d

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
３．出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	コンクリート橋上部工事（ＰＣ及びＲＣを対象）	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価率）から判断する。（判断基準参照）						

該当	評価	「評価対象項目」
□	□	1．コンクリートの配合試験等を行っており、コンクリートの品質（強度・W/C、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等）が確認できる。
□	□	2．コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。
□	□	3．圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。
□	□	4．施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。（寒中及び暑中コンクリート等を含む）
□	□	5．コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	6．コンクリートの圧縮強度を管理して、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。
□	□	7．鉄筋の品質が、証明書類で確認できる。
□	□	8．鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	9．鉄筋の引張強度及び曲げ強度の試験値が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	10．コンクリート打設までにさび、どろ、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。
□	□	11．圧接作業に当たり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。
□	□	12．スペーサーの品質及び個数が、設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。
□	□	13．コンクリート圧縮強度の確認は、構造物と同様な養生条件におかれた供試体を用いていることが確認できる。
□	□	14．プレストレッシング時のコンクリート圧縮強度が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	15．ＰＣ鋼材の緊張及びグラウト注入管理値が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	16．使用する装置及び機器のキャリブレーションを事前に実施していることが確認できる。
□	□	17．プレビーム桁のプレフレクション管理が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	18．有害なクラックがない。
□	□	19．その他（理由：　　）
		「品質関係の試験結果のばらつき」
□		22．ばらつきが50%以内
□		23．ばらつきが80%以内
□		24．ばらつきが80%を超える
評価率		
評　定		※評価対象となる項目が２項目以下の場合はｃ評価とする。
点　数		

評価	d
□	20．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で改善指示を行い改善された。

評価	e
□	21．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

「判断基準」

		ばらつきで判断可能		
		50%以内	80%以内	80%を超える
評価率	90%以上	a	a’	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c
	60%未満	b’	c	c

※ばらつきで判断できない場合は、品質のばらつきを規格値の80%以内と見なして評価する。

様式－5Ｃ⑩－7　　工事番号

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	b	c	d
３．出来形及び出来ばえ Ⅲ．出来ばえ	コンクリート橋上部工事（ＰＣ及びＲＣを対象）	優れている。	やや優れている。	他の事項に該当しない。	劣っている

該当	評価	「評価対象項目」
□	□	1．コンクリート構造物の表面状態が良い。
□	□	2．コンクリート構造物の通りが良い。
□	□	3．天端及び端部の仕上げが良い。
□	□	4．支承部の仕上げが良い。
□	□	5．クラック（無害なクラックを含む）がない。
□	□	6．全体的な美観が良い。
評価		
点数		

該当項目が6項目の場合	該当項目が5項目の場合	該当項目が3～4項目の場合	該当項目が2項目以下の場合
5項目以上評価・・・a	4項目以上評価・・・a	3項目以上評価・・・a	1項目以上評価・・・c
4項目以上評価・・・b	3項目以上評価・・・b	2項目以上評価・・・b	評価項目なし　・・・d
3項目以上評価・・・c	2項目以上評価・・・c	1項目以上評価・・・c	
2項目以下　　・・・d	1項目以下　　・・・d	評価項目なし　・・・d	

様式－5C⑧－１３　　工事番号

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
３．出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	塗装工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価率）から判断する。（判断基準参照）						

該当	評価	「評価対象項目」
□	□	1．塗装作業にあたり、塗布面を十分に乾燥させて施工していることが確認できる。
□	□	2．ケレンを入念に実施していることが確認できる。
□	□	3．天候状況の確認、気温及び湿度の測定を行い、塗装作業を行っていることが確認できる。
□	□	4．塗料を使用前に撹拌し、容器の塗料を均一な状態にしてから使用していることが確認できる。
□	□	5．塗り残し、ながれ、しわ等がなく塗装されていることが確認できる。
□	□	6．鋼材表面及び被塗装面の汚れ、油類等を除去し塗装を行っていることが確認できる。
□	□	7．塗料の空缶管理について写真等で確実に空であることが確認できる。
□	□	8．溶接部、ボルトの接合部分、構造の複雑な部分について、必要な塗膜厚を確保していることが確認できる。
□	□	9．塗料の品質が出荷証明書、塗料成績表により、製造年月日、ロット番号、色彩、数量が確認できる。
□	□	10．その他（理由：　　）
		「品質関係の試験結果のばらつき」
□		13．ばらつきが50%以内
□		14．ばらつきが80%以内
□		15．ばらつきが80%を超える
評価率		
評　定		※評価対象となる項目が２項目以下の場合はｃ評価とする。
点　数		

評価	d
□	11．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で改善指示を行い改善された。

評価	e
□	12．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

「判断基準」

		ばらつきで判断可能		
		50%以内	80%以内	80%を超える
評価率	90%以上	a	a’	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c
	60%未満	b’	c	c

※ばらつきで判断できない場合は、品質のばらつきを規格値の80%以内と見なして評価する。

様式－5Ｃ⑩－8　　工事番号

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	b	c	d
３．出来形及び出来ばえ Ⅲ．出来ばえ	塗装工事	優れている。	やや優れている。	他の事項に該当しない。	劣っている

該当	評価	「評価対象項目」
□	□	1．塗装の均一性が良い。
□	□	2．細部まできめ細かな施工がされている。
□	□	3．補修箇所がない。
□	□	4．ケレンの施工状況が良好である。
□	□	5．全体的な美観が良い。
評価		
点数		

該当項目が5項目の場合	該当項目が3～4項目の場合	該当項目が2項目以下の場合
4項目以上評価・・・a	3項目以上評価・・・a	1項目以上評価・・・c
3項目以上評価・・・b	2項目以上評価・・・b	評価項目なし　・・・d
2項目以上評価・・・c	1項目以上評価・・・c	
1項目以下　　・・・d	評価項目なし　・・・d	

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
３．出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	トンネル工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価率）から判断する。（判断基準参照）						

該当	評価	「評価対象項目」
□	□	1．コンクリートの配合試験等を行っており、コンクリートの品質（強度・W/C、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等）が確認できる。
□	□	2．コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。
□	□	3．圧縮強度試験に使用したコンクリートの供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。
□	□	4．施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設方法及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが確認できる。
□	□	5．コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	6．吹付コンクリートの配合及びロックボルトの種別、規格が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	7．設計図書に定められた岩区分（支保工パターン含む）の境界を確認して施工を行っていることが確認できる。
□	□	8．坑内観察調査などについて、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	9．計測管理を日々行っており、その結果に基づいた施工を行っていることが確認できる。
□	□	10．金網の継ぎ目を１５cm以上重ね合わせて施工していることが確認できる。
□	□	11．吹付コンクリートの施工にあたって、浮石等を除いた後に、吹付コンクリートの一層の厚さが15cm以下で地山と密着するよう施工していることが確認できる。
□	□	12．吹付コンクリートを打継ぎする場合は、吹付完了面を清掃した上、湿潤状態で施工していることが確認できる。
□	□	13．ロックボルトの定着長が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	14．防水工に防水シートを使用する場合は、ロックボルト等の突起物にモルタルや保護マット等で防護対策を行っていることが確認できる。
□	□	15．逆巻きの場合において、側壁コンクリートとアーチコンクリートの打継目が同一線上で施工していないことが確認できる。
□	□	16．有害なクラックがない。
□	□	17．その他（理由：　　）
		「品質関係の試験結果のばらつき」
□		20．ばらつきが50%以内
□		21．ばらつきが80%以内
□		22．ばらつきが80%を超える
評価率		
評　定		※評価対象となる項目が２項目以下の場合はｃ評価とする。
点　数		

評価	d
□	18．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で改善指示を行い改善された。

評価	e
□	19．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

「判断基準」

		ばらつきで判断可能		
		50%以内	80%以内	80%を超える
評価率	90%以上	a	a’	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c
	60%未満	b’	c	c

※ばらつきで判断できない場合は、品質のばらつきを規格値の80%以内と見なして評価する。

様式－5C⑧－１５　　工事番号

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
３．出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	植栽工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価率）から判断する。（判断基準参照）						

該当	評価	「評価対象項目」
□	□	1．活着が促されるよう管理していることが確認できる。
□	□	2．樹木などに損傷、はちくずれ等がないよう保護養生を行っていることが確認できる。
□	□	3．樹木等の生育に害のある害虫等がいないことが確認できる。
□	□	4．施工完了後、余剰枝の剪定、整形その他必要な手入れを行っていることが確認できる。
□	□	5．肥料が直接樹木の根に触れないよう均一に施肥していることが確認できる。
□	□	6．植生する樹木に応じて、余裕のある植穴を掘り植穴底部を耕していることが確認できる。
□	□	7．添木をぐらつきがないよう設置していることが確認できる。
□	□	8．樹名板を視認しやすい場所に据付けていることが確認できる。
□	□	9．その他（理由：　　）
		「品質関係の試験結果のばらつき」
□		12．ばらつきが50%以内
□		13．ばらつきが80%以内
□		14．ばらつきが80%を超える
評価率		
評　定		※評価対象となる項目が２項目以下の場合はｃ評価とする。
点　数		

評価	d
□	10．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で改善指示を行い改善された。

評価	e
□	11．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

「判断基準」

		ばらつきで判断可能		
		50%以内	80%以内	80%を超える
評価率	90%以上	a	a’	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c
	60%未満	b’	c	c

※ばらつきで判断できない場合は、品質のばらつきを規格値の80%以内と見なして評価する。

様式－5Ｃ⑩－9　　工事番号

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	b	c	d
３．出来形及び出来ばえ Ⅲ．出来ばえ	植栽工事	優れている。	やや優れている。	他の事項に該当しない。	劣っている

該当	評価	「評価対象項目」
□	□	1．樹木の活着状況が良い。
□	□	2．支柱の取り付けがきめ細かく施工されている。
□	□	3．支柱の取り付けが堅固である。
□	□	4．全体的な美観が良い。
評価		
点数		

該当項目が3～4項目の場合	該当項目が2項目以下の場合
3項目以上評価・・・a 2項目以上評価・・・b 1項目以上評価・・・c 評価項目なし　・・・d	1項目以上評価・・・c 評価項目なし　・・・d

様式－5C⑧－１６　　工事番号

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
３．出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	公園工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価率）から判断する。（判断基準参照）						

該当	評価	「評価対象項目」
□	□	1．仕様書等で定められている品質管理が実施されていることが確認できる。
□	□	2．材料の品質及び形状が設計図書の条件を満足していることが確認できる。
□	□	3．部品の品質及び形状が設計図書の条件を満足していることが確認できる。
□	□	4．遊戯施設等の機能と安全性が設計図書の条件を満足していることが確認できる。
□	□	5．植物、公園資材等による修景効果向上についての配慮が事前に十分検討され良好な施工がされていることが確認できる。
□	□	6．その他（理由：　　）
		「品質関係の試験結果のばらつき」
□		9．ばらつきが50%以内
□		10．ばらつきが80%以内
□		11．ばらつきが80%を超える
評価率		
評　定		※評価対象となる項目が２項目以下の場合はｃ評価とする。
点　数		

評価	d
□	7．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で改善指示を行い改善された。

評価	e
□	8．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

「判断基準」

		ばらつきで判断可能		
		50%以内	80%以内	80%を超える
評価率	90%以上	a	a’	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c
	60%未満	b’	c	c

※ばらつきで判断できない場合は、品質のばらつきを規格値の80%以内と見なして評価する。

様式－5Ｃ⑩－10　　工事番号

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	b	c	d
３．出来形及び出来ばえ Ⅲ．出来ばえ	公園工事	優れている。	やや優れている。	他の事項に該当しない。	劣っている

該当	評価	「評価対象項目」
□	□	1．施設構造物の肌、通り、収まり等仕上げの状態が良い。
□	□	2．舗装の平坦性が良い。
□	□	3．遊具等の作動が安全でかつ良好に作動する。
□	□	4．維持管理等の配慮が良い。
□	□	5．全体的な景観が良い。
評価		
点数		

該当項目が5項目の場合	該当項目が3～4項目の場合	該当項目が2項目以下の場合
4項目以上評価・・・a	3項目以上評価・・・a	1項目以上評価・・・c
3項目以上評価・・・b	2項目以上評価・・・b	評価項目なし　・・・d
2項目以上評価・・・c	1項目以上評価・・・c	
1項目以下　　・・・d	評価項目なし　・・・d	

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
３．出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	河川工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価率）から判断する。（判断基準参照）						

該当	評価	「評価対象項目」
		【河川土工（築堤工等】
□	□	1．段切りを設計図書に基づき行っていることが確認できる。
□	□	2．掘削を行うにあたり、床付面以下を乱さないように施工していることが確認できる。
□	□	3．締固めが設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。
□	□	4．一層あたりのまき出し厚を管理していることが確認できる。
□	□	5．植生工を設計図書に定められた条件で行っていることが確認できる。
□	□	6．構造物周辺の締固めを設計図書に定められた条件で行っていることが確認できる。
□	□	7．法面に有害な亀裂がない。
□	□	8．伐開除根作業が設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。
□	□	9．その他（理由：　　）
		【護岸・根固、水制工】
□	□	10．施工基面を平滑に仕上げていることが確認できる。
□	□	11．基礎工において、掘り過ぎが無く施工していることが確認できる。
□	□	12．施工にあたって、床掘箇所の湧水及び滞水等は、排除して施工していることが確認できる。
□	□	13．裏込材及び胴込めコンクリートの締固めを空隙が生じないよう十分に行っていることが確認できる。
□	□	14．緑化ブロック、石積（張）、法枠、かごマット等における材料のかみ合わせ又は連結が、裏込材の吸出しがないよう行っていることが確認できる。
□	□	15．石積（張）工において、大きさ及び重さが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	16．護岸工の端部や曲線部の処理が適切であり、必要な強度及び水密性を確保しているがことが確認できる。
□	□	17．シートが所定の幅で重ね合わせられ、端部処理が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	18．根固工、水制工、沈床工、捨石工等において、材料の連結及びかみ合わせが設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	19．材料の品質が、証明書類で確認できる。
□	□	20．コンクリートブロック等を損傷なく設置していることが確認できる。
□	□	21．埋戻し材料について、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	22．有害なクラックがない。
□	□	23．その他（理由：　　）
		「品質関係の試験結果のばらつき」
□		26．ばらつきが50%以内
□		27．ばらつきが80%以内
□		28．ばらつきが80%を超える
評価率		
評　定		※評価対象となる項目が２項目以下の場合はｃ評価とする。
点　数		

評価	d
□	24．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で改善指示を行い改善された。

評価	e
□	25．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

「判断基準」

		ばらつきで判断可能		
		50%以内	80%以内	80%を超える
評価率	90%以上	a	a’	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c
	60%未満	b’	c	c

※ばらつきで判断できない場合は、品質のばらつきを規格値の80%以内と見なして評価する。

様式－5Ｃ⑩－11　　工事番号

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	b	c	d
３．出来形及び出来ばえ Ⅲ．出来ばえ	河川工事	優れている。	やや優れている。	他の事項に該当しない。	劣っている

該当	評価	「評価対象項目」
□	□	1．仕上げが良い。
□	□	2．通りが良い。
□	□	3．天端及び端部の仕上げが良い。
□	□	4．材料のかみ合わせがよく、クラック（無害なクラックを含む）がない。
□	□	5．構造物へのすりつけ等が良い。
□	□	6．全体的な美観が良い。
評価		
点数		

該当項目が6項目の場合	該当項目が5項目の場合	該当項目が3～4項目の場合	該当項目が2項目以下の場合
5項目以上評価・・・a	4項目以上評価・・・a	3項目以上評価・・・a	1項目以上評価・・・c
4項目以上評価・・・b	3項目以上評価・・・b	2項目以上評価・・・b	評価項目なし　・・・d
3項目以上評価・・・c	2項目以上評価・・・c	1項目以上評価・・・c	
2項目以下　　・・・d	1項目以下　　・・・d	評価項目なし　・・・d	

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
３．出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	下水道工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価率）から判断する。（判断基準参照）						

該当	評価	「評価対象項目」
□	□	1．使用する材料の種類、品質等が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	2．管渠工において止水滑材や接着剤等のはみ出し等がないことが確認できる。
□	□	3．推進管の裏込め材料が十分充填されていることが確認できる。
□	□	4．マンホールの足掛金物が正確かつ堅固に取り付けられ、ゆるみを生じていないことが確認できる。
□	□	5．管渠、マンホール、インバート等からの漏水がないことが確認できる。
□	□	6．インバートの表面が、接続管の直径、管底に合わせて滑らかに仕上がっていることが確認できる。
□	□	7．管渠、取り付け管等の目立った屈曲や沈下がないことが確認できる。
□	□	8．掘削を行うにあたり、床付面以下を乱さないように施工していることが確認できる。
□	□	9．締固めが設計図書に定められた条件を満足していることが確認できる。
□	□	10．一層あたりのまき出し厚を管理していることが確認できる。
□	□	11．構造物周辺の締固めを設計図書に定められた条件で行っていることが確認できる。
□	□	12．舗装復旧工が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	13．縁石・柵・標識等の道路附属物の復旧が設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	14．その他（理由：　　）
		「品質関係の試験結果のばらつき」
□		17．ばらつきが50%以内
□		18．ばらつきが80%以内
□		19．ばらつきが80%を超える
評価率		
評　定		※評価対象となる項目が２項目以下の場合はｃ評価とする。
点　数		

評価	d
□	15．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で改善指示を行い改善された。

評価	e
□	16．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

「判断基準」

		ばらつきで判断可能		
		50%以内	80%以内	80%を超える
評価率	90%以上	a	a’	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c
	60%未満	b’	c	c

※ばらつきで判断できない場合は、品質のばらつきを規格値の80%以内と見なして評価する。

様式－5Ｃ⑩－12　　工事番号

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	b	c	d
３．出来形及び出来ばえ Ⅲ．出来ばえ	下水道工事	優れている。	やや優れている。	他の事項に該当しない。	劣っている

該当	評価	「評価対象項目」
□	□	1．仕上げが良い。
□	□	2．通りが良い。
□	□	3．施工管理記録等から、不可視部分のできばえの良さがうかがえる。
□	□	4．既設構造物とのすりつけが良い。
□	□	5．埋戻し及び路面復旧の状態が良い。
評価		
点数		

該当項目が5項目の場合	該当項目が3～4項目の場合	該当項目が2項目以下の場合
4項目以上評価・・・a	3項目以上評価・・・a	1項目以上評価・・・c
3項目以上評価・・・b	2項目以上評価・・・b	評価項目なし　・・・d
2項目以上評価・・・c	1項目以上評価・・・c	
1項目以下　　・・・d	評価項目なし　・・・d	

様式－5Ｃ⑩－15　　工事番号

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	b	c	d
３．出来形及び出来ばえ Ⅲ．出来ばえ	標識工事	優れている。	やや優れている。	他の事項に該当しない。	劣っている

該当	評価	「評価対象項目」
□	□	1．設置位置に配慮がある。
□	□	2．標識板の向き並びに角度及びその支柱の通りが良い。
□	□	3．標識板の支柱に変色がない。
□	□	4．支柱基礎が入念に埋め戻されている。
□	□	5．全体的な美観が良い。
評価		
点数		

該当項目が5項目の場合	該当項目が3～4項目の場合	該当項目が2項目以下の場合
4項目以上評価・・・a	3項目以上評価・・・a	1項目以上評価・・・c
3項目以上評価・・・b	2項目以上評価・・・b	評価項目なし　・・・d
2項目以上評価・・・c	1項目以上評価・・・c	
1項目以下　　・・・d	評価項目なし　・・・d	

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	a’	b	b’	c	d	e
３．出来形及び出来ばえ Ⅱ．品質	防護柵（網）・標識・区画線等設置工事	品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況（評価率）から判断する。（判断基準参照）						

該当	評価	「評価対象項目」
□	□	1．防護柵の設置基準、視線誘導標設置基準、道路標識ハンドブック等の規程を満足していることが確認できる。
□	□	2．防護柵等の床掘りの仕上がり面において、地山の乱れや不陸が生じないように施工していることが確認できる。
□	□	3．防護柵等の基礎工の施工にあたって、無筋及び鉄筋コンクリートの規定を満足していることが確認できる。
□	□	4．防護柵等の支柱の施工にあたって、既設舗装面へ影響がないよう施工していることが確認できる。
□	□	5．防護柵の支柱の根入長が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	6．ガードケーブルを支柱に取付ける場合、設計図書に定められた所定の張力を与えているのが確認できる。
□	□	7．ガードケーブルの端末支柱を土中に設置する場合、打設したコンクリートが設計図書に定められた強度以上であることが確認できる。
□	□	8．ペイント式（常温式）区画線にシンナーを使用する場合、使用量が10%以下であることが確認できる。
□	□	9．区画線の厚さが見本等で設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	10．区画線施工後の昼間及び夜間の視認性が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	11．区画線の施工にあたって、設置路面の水分、泥、砂じん及びほこりを取り除いて行っていることが確認できる。
□	□	12．区画線を消去の場合、標示材（塗料）のみの除去となっており、路面への影響が最小限となっていることが確認できる。
□	□	13．プライマーの施工にあたって、路面に均等に塗布していることが確認できる。
□	□	14．区画線の材料が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。
□	□	15．その他（理由：　　）
		「品質関係の試験結果のばらつき」
□		18．ばらつきが50%以内
□		19．ばらつきが80%以内
□		20．ばらつきが80%を超える
評価率		
評　定		※評価対象となる項目が２項目以下の場合はｃ評価とする。
点　数		

評価	d
□	16．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、工事監督員が文書で改善指示を行い改善された。

評価	e
□	17．品質関係の測定方法又は測定値が不適切であったため、検査員が修補指示を行った。

「判断基準」

		ばらつきで判断可能		
		50%以内	80%以内	80%を超える
評価率	90%以上	a	a’	b
	75%以上90%未満	a’	b	b’
	60%以上75%未満	b	b’	c
	60%未満	b’	c	c

※ばらつきで判断できない場合は、品質のばらつきを規格値の80%以内と見なして評価する。

様式－5Ｃ⑩－13　　工事番号

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	b	c	d
３．出来形及び出来ばえ Ⅲ．出来ばえ	防護柵（網）工事	優れている。	やや優れている。	他の事項に該当しない。	劣っている

該当	評価	「評価対象項目」
□	□	1．通りが良い。
□	□	2．端部処理が良い。
□	□	3．部材表面に傷、錆がない。
□	□	4．既設構造物とのすりつけが良い。
□	□	5．きめ細やかな施工がなされている。
□	□	6．全体的な美観が良い。
評価		
点数		

該当項目が6項目の場合	該当項目が5項目の場合	該当項目が3～4項目の場合	該当項目が2項目以下の場合
5項目以上評価・・・a	4項目以上評価・・・a	3項目以上評価・・・a	1項目以上評価・・・c
4項目以上評価・・・b	3項目以上評価・・・b	2項目以上評価・・・b	評価項目なし　・・・d
3項目以上評価・・・c	2項目以上評価・・・c	1項目以上評価・・・c	
2項目以下　　・・・d	1項目以下　　・・・d	評価項目なし　・・・d	

様式－5Ｃ⑩－14　　工事番号

工事成績採点の考査項目別運用表

［記入方法］　該当する項目に「レ点」を付すこと。　　（土木・検査員用）

評価項目細別	工種	a	b	c	d
３．出来形及び出来ばえ Ⅲ．出来ばえ	区画線工事	優れている。	やや優れている。	他の事項に該当しない。	劣っている

該当	評価	「評価対象項目」
□	□	1．塗料の塗布が均一である。
□	□	2．視認性が良い。
□	□	3．接着状態が良い。
□	□	4．施工前の清掃が入念に実施されている。
□	□	5．全体的な美観が良い。
評価		
点数		

該当項目が5項目の場合	該当項目が3～4項目の場合	該当項目が2項目以下の場合
4項目以上評価・・・a	3項目以上評価・・・a	1項目以上評価・・・c
3項目以上評価・・・b	2項目以上評価・・・b	評価項目なし　・・・d
2項目以上評価・・・c	1項目以上評価・・・c	
1項目以下　　・・・d	評価項目なし　・・・d	